

# 甲塚古墳(下野市)

正面が下野国分寺跡から見る甲塚古墳



県道側から見る





アップで見る





明治期の発掘で十字型に掘られそのままになっているという墳丘





アップで見る





砂利の部分は周濠跡部分か





アップで見る













栃木県 下野市

# 甲塚古墳

—平成16年度規模確認調査—



KARUTOZUKA KOFUN

2008.3  
栃木県  
下野市教育委員会



## はじめに

国分寺町では、平成11年～16年度に「下野国分寺保存整備基本構想」にもとづき国指定史跡下野国分寺跡(指定大正10年3月3日)の調査をおこなってまいりました。平成16年度には主要伽藍の中でもシンボリックな建物である塔跡を史跡整備委員会、文化庁、県教育委員会の指導のもと調査いたしました。また、調査の進行に合わせて「保存整備基本計画」の策定を進めてまいりましたが、「国分寺跡の南西に隣接する甲塚古墳についても併せて整備し、古墳から古代寺院まで地域の歴史に密着した総合的な史跡の活用を」との考えから、墳形や埴輪配置の確認、明治年間の発掘で破壊された範囲がどの程度なのか確認することを目的として調査をおこないました。

## 歴史的環境

甲塚古墳の位置する栃木県南部は、古墳時代後期の大型古墳が最も多く集中している地域といえます。思川・姿川・田川に沿った肥沃な台地に古墳が集中する地域が幾つかあり、後期になって台頭してきた地域首長の支配域が古墳の分布から推測できます。更に詳細にこの地域を観察すると、甲塚古墳の位置する台地及びその周辺には古墳時代前期から中期に遡る古墳は確認されておらず、後期になってから

## 調査成果

**墳丘:**これまでの研究成果を踏まえて今回調査を行いました。調査前の状況は、古墳の墳丘は明治一六年と二六年の二回にわたる発掘によって幾つかに分断されており、石室のあった場所も大きく掘り窪められていました。これらの攪乱が著しいため通常古墳の調査方法と違った方法をとりました。それはトレンチと呼ばれる試掘坑の配置を本来ならば古墳の主軸に対して東西南北方向に設定するのですが、この位置が攪乱により崩されているため、その位置を避けてトレンチを設定しました。

南北に延びる丘陵の緩やかな南斜面に築造された古墳は、これまで推定全長85m、後円部径63m・推定高7.5m、推定前方部(造出)前端幅56m・推定高4m、墳丘第二段目長47m、(後円部径31m・前方部(造出)前端幅20m)と考えられていました。墳丘の裾をめぐる周溝については、墳丘北側の周溝のみが、県教育委員会による国分寺跡の調査時にその

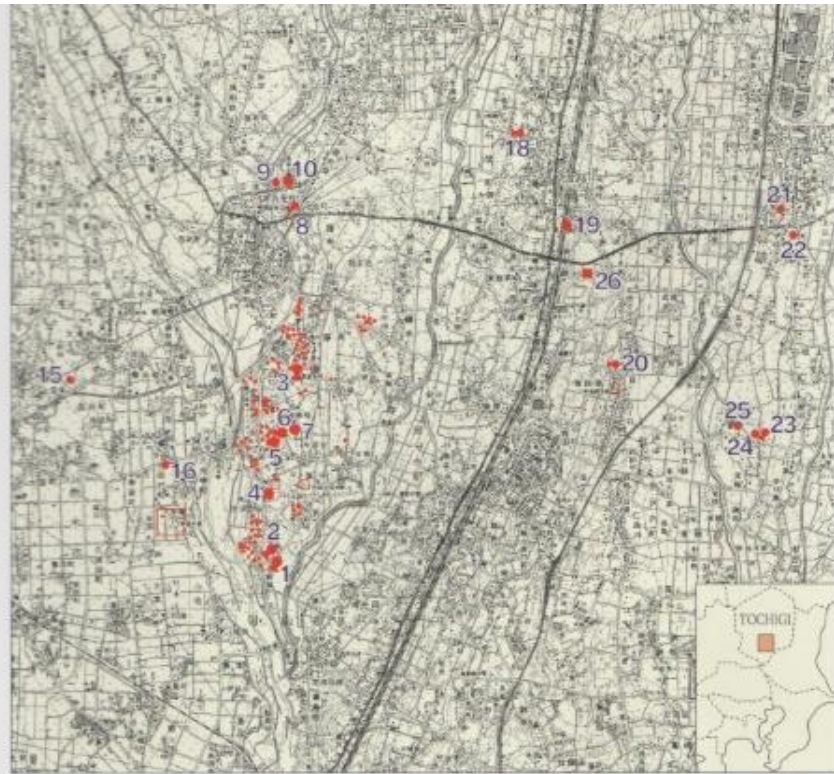




大型古墳の継続的な築造がなされた地域であることがわかります。主要な古墳は、南から摩利支天塚古墳(115m)、琵琶塚古墳(123m)、甲塚古墳(80m)、愛宕塚古墳(70m)、山王塚古墳(72m)、丸塚古墳(58m)、吾妻古墳(115m)です。これらの古墳の中で丸塚古墳のみが円墳で、他は前方後円墳です。付近の大型古墳の築造は、摩利支天塚古墳→琵琶塚古墳→吾妻古墳→甲塚古墳→愛宕塚古墳・山王塚古墳→丸塚古墳の順と考えられています。

また、甲塚古墳の南約500m付近に飯塚古墳群、北1km付近には藤井古墳群などの後期群集墳が形成され、更に飯塚古墳群から花見ヶ岡地区周辺まで後期群集墳が集中して築造されていたことが『紀元二千六百年記念古墳調査』の記録に残されています。

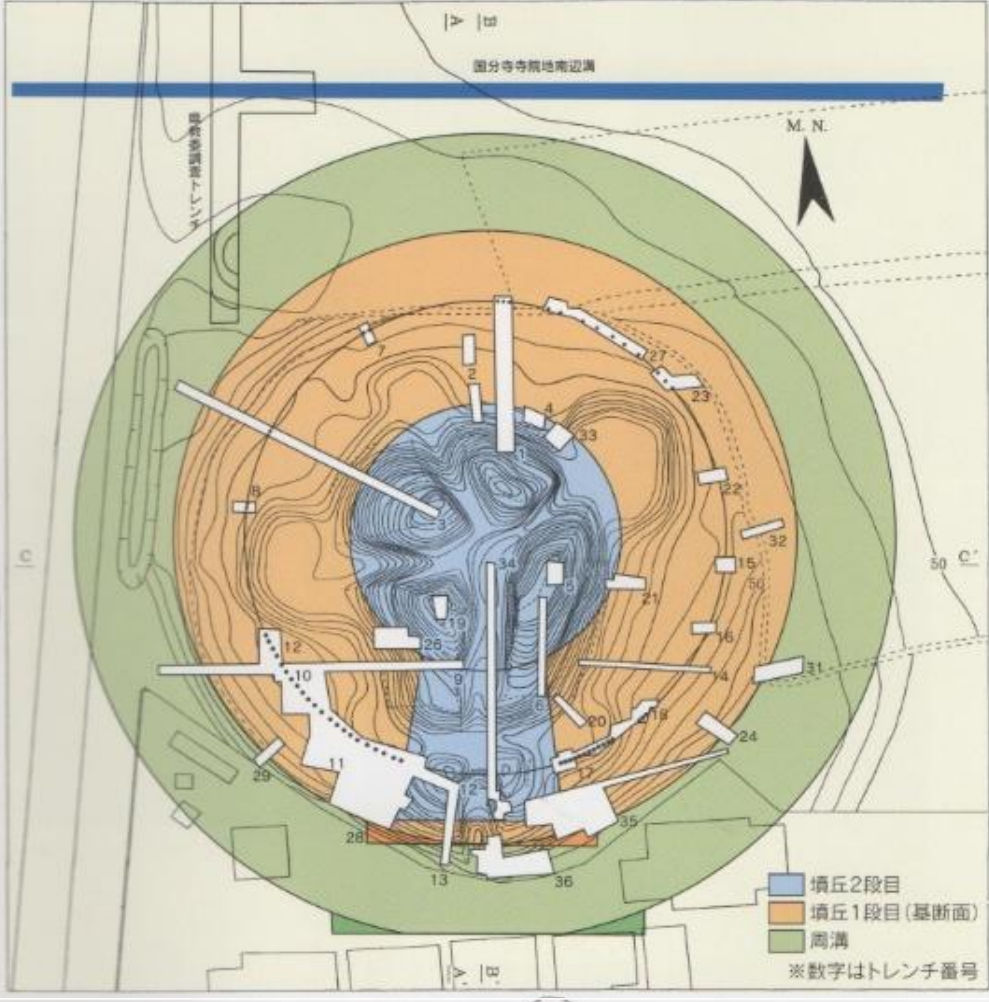
このように、甲塚古墳の位置する台地は、古墳時代後期に大型古墳の継続的な築造と群集墳の集中が認められる地域の一つです。また、この甲塚古墳周辺は、この後の律令期には、下野国分寺・尼寺が思川対岸には下野国府が配置され、古代下野国の中枢地域として栄えた地域となります。



- |             |          |           |             |            |
|-------------|----------|-----------|-------------|------------|
| 1 摩利支天塚古墳   | 2 琵琶塚古墳  | 3 吾妻古墳    | 4 甲塚古墳      | 5 国分寺愛宕塚古墳 |
| 6 山王塚古墳     | 7 丸塚古墳   | 8 壬生愛宕塚古墳 | 9 牛塚古墳      | 10 車塚古墳    |
| 11 富士山古墳    | 12 茶白山古墳 | 13 長塚古墳   | 14 桃花塚古墳    | 15 岩塚古墳    |
| 16 丸山古墳     | 17 判官塚古墳 | 18 横塚古墳   | 19 下石橋愛宕塚古墳 | 20 御鷲山古墳   |
| 21 上三川愛宕塚古墳 | 22 兜塚古墳  | 23 三王山古墳  | 24 三王山39号墳  | 25 星の宮古墳   |
| 26 多功大塚山古墳  |          |           |             |            |

図-1.黒川・田川水系の主要古墳分布







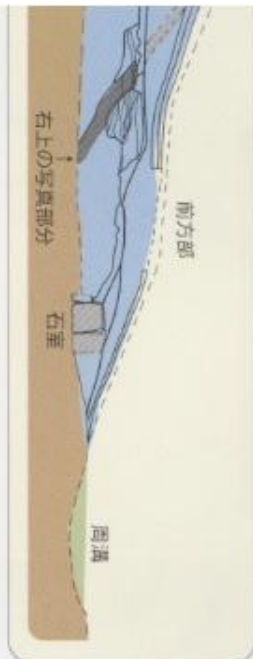


図-2.墳丘裁ち割り図と推定高のライン

位置と規模が確認されていましたが、今回、北西・西・東・南・南西・南東部でその位置を把握しました。その結果、墳丘一段目全長80m、推定墳丘高7.5m、推定前方部（造出）前端幅18m・推定高5.5m、墳丘第二段目長47m、（後円部径34m・前方部長（造出）13m）であることが判明しました。



図-3.トレンチ配置図

※ベースの図は「甲塚古墳調査報告」「栃木県考古学会誌」第11集をもとに作成しています。



▲ 後円部(左)と前方部(右)の境の層



▲ 同左(北西から)

墳丘第二段目の裾部では、墳頂部から崩落した円筒埴輪や朝顔形埴輪の破片が多く出土しました。後円部北側の第1トレンチ付近では約10cmの礫が多数埴輪破片に混じって出土しました。墳丘崩落土の多くは鹿沼軽石層を利用した盛土で、この古墳が造られる過程で、それまで何も無かったところに黄色の山が出来上が功、当時の人々を驚かせたと考えられます。







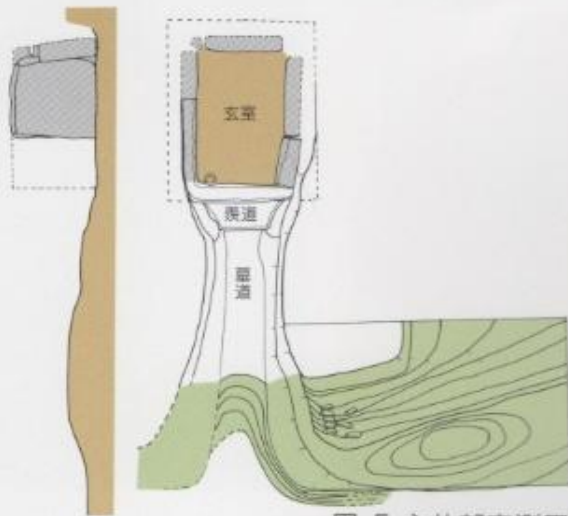


図-5.主体部実測図

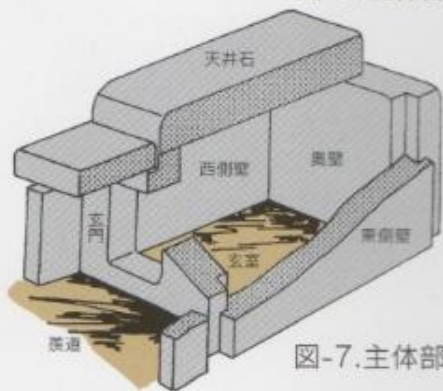


図-7.主体部模式図

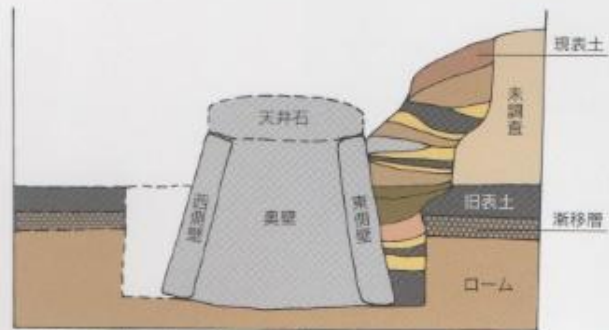


図-6.主体部と盛土の断面図



▲ 主体部の断面と掘り形



▲ 間隔が広く配置された円筒埴輪(23トレンチ)

埋葬施設は凝灰岩切石を用いた地下式の横穴式石室で、

埴輪:これまでの研究報告で、埴輪があることは判明していま



墳丘二段目の前方部前端に造られています。天井石は持ち去られて残っていませんが、石室の奥壁及び側壁の一枚石は残っていました。玄門は剝り抜き玄門であると考えられています。石室の規模は長さ0.6mの羨道部を含めると推定全長4.2m(4.8mの墓道を含めると約9m)、玄室長3.0m、玄室幅2.0m、玄室高1.9mと推測されます。

**周溝:**過去の県教委の調査では、周溝の幅が約9mであることが確認されており、北西部の周溝の一部は土橋状に途切れていることも確認されています。さらに、国分寺建立の時期には周溝は半分程度しか埋まらず、窪地として残っており、南辺の寺院地溝は古墳の周溝を2m程度避けて掘られていることも確認されています。

今回の調査では周溝の内側(墳丘側)の位置については把握しましたが、外側の立ち上がり位置は、調査区外のため未調査となりました。周溝の内側は、後円部の中心から約30mの位置ですべてのトレンチで確認されました。前方部(造出)前端及び隅部付近では若干張り出し部を形成しています。調査時に墳丘一段目(基壇面)は墳丘第二段目の形状と相似形になると想定し、前方部(造出)前端にトレンチを設定し掘り進めたところ、平坦な基壇面が確認できず、周溝の掘り込みが確認されました。よって、南側に張り出しを伴う円形の周溝の可能性を推定しました。

したが、墳丘がかなり壊されており、埴輪も少量が出土する程度と考えられていました。調査を開始し、第10トレンチを掘り進めた結果、円筒埴輪が多数出土しました。更にそのまま南に掘り進めると、馬形埴輪や馬子と推測される人物埴輪、女性の埴輪などが確認されました。埴輪は、墳丘第二段目の裾から周溝までの幅約12mの平坦面(基壇面)のほぼ中央の6mの位置に一列に配置されていました。4体確認された馬形埴輪はすべて主体部の方を向いており、墳丘側に馬子と考えられる人物埴輪が配置されていました。馬形埴輪の前方には女性の人物埴輪が6体、その前方に基部が楕円形ではかのものに比べて大型の埴輪が2体、その前方に10体程度の人物埴輪が配置されています(半数以上が男性の埴輪)。さらにその前方に円筒か朝顔形埴輪が置かれており、前方部(造出)の西裾部の傾斜面に至っていました。この埴輪列の延長上で、前方部(造出)の上面の調査をおこないましたが、上面に埴輪がならべられた形跡はみられませんでした。最後尾の馬形埴輪の後方はすべて円筒埴輪と朝顔形埴輪で構成されており、これらが後円部を全周していることも確認しました。

また、前方部(造出)東側の埴輪列はすべて円筒埴輪と朝顔形埴輪によって形成されていました。東墳丘の裾部には円筒埴輪が立てられ、8本目と16本目には朝顔形埴輪が並べられていました。この付近の埴輪列は埴輪と埴輪が隙間無く並べられていましたが、後円部の北から北東方向では、円筒埴輪と円筒埴輪の間隔が広く、60~90cm程度間延びしているところもありました。





図-B.土器群出土土器



▲土器群(北から)



▲土器群(北から)



▲土器群(北から)



▲土器群(北から)



▲土器群(北から)



▲土器群(北から)



▲土器群(東から)



▲土器群(東から)



▲土器群(東から)



埴輪列の並び方を全体的に観察すると古墳の形が前方後円墳(帆立貝形古墳)でありながら、埴輪列は前方部(造出)前端のほうにのびず、きれいな円形に巡っていることがわかります。前方部(造出)西側の形象埴輪列の外側には、唯一列から離れ盾持ち人が配置されていました。整理作業が始まったばかりですが、今のところ家形や武器・武具・威儀具などの器財埴輪は確認されていません。

**大量の土器群:**前方部(造出)西側の形象埴輪列の最前列付近の南側から大量の土器類が出土しました。その土器群は、土師器坏、土師器高坏、須恵器坏、蓋、有蓋高坏、大甕、脚付長頸壺などの器種構成です。土器はおおよそ2.5m四方の中からまとまって出土しました。写真のように土器群の中心には、土師器高坏を1列に5~7個並べ8列程度の列をつくっていました。土師器高坏の脚部の多くは立った状態で出土した、このようなことがわかりました。この土師器高坏の北側と東側の列に沿って須恵器の高坏が並べられていました。これらの高坏の多くは蓋を持つ高坏で、高坏の横に蓋が置かれた状態で出土したものもありました。坏類は高坏など

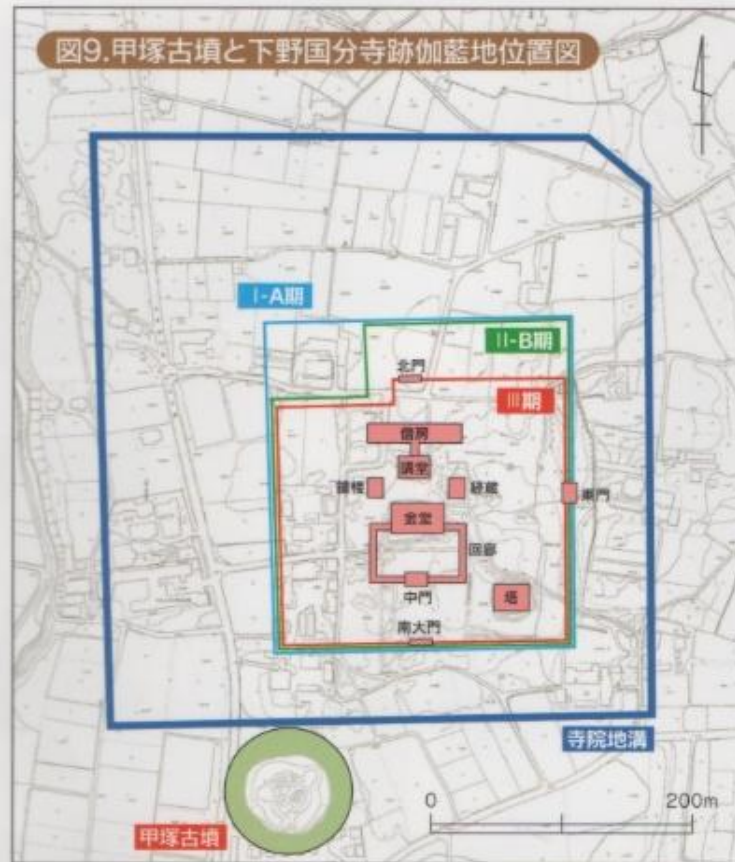


図9.甲塚古墳と下野国分寺跡伽藍地位置図

群を飛び越えた埴輪列付近からまとまって出土しており、底を抜いた後に持ち上げて、この位置から北に(埴輪列のほうに)



に比べて細かく割れた破片で出土しており、破片も飛び散って出土していることから意図的に割った可能性も考えられます。

須恵器の坏・坏蓋・高坏・高坏蓋は、約150点前後出土していますが、高坏が約50点、その蓋がほぼ同数、残りが坏・坏蓋となります。これらを製作技法の特徴や胎土・色調で分けるとおおよそ4種類に分類することができます。1種類目は濃い灰色で全体的に薄く、高温で焼かれたため硬く金属のような音のする種類もの。2種類目は胎土が砂っぽく、色が灰白色ですが焼成温度が高く、緑色の自然釉が付着するもの。3種類目は深い灰色でほかの高坏より大きめで蓋も丸みを帯びて作られているもの。4種類目は胎土に白色系の砂粒が比較的多く入り蓋の天井部や高坏の脚部にカキ目を施しているものが多く見られます。量は1・2が少なく4が多く見られます。下野国内ではまだ須恵器生産が始まっていない時期で、複数の地域で生産された製品が流通してきていたことが、これらの土器からもわかります。1は近畿地方、2は静岡県湖西市周辺、3は東海地方、4は群馬県太田地域か埼玉県周辺と考えられます。時期は6世紀後半(TK43併行期)にかけてのものと考えられます。

須恵器大甕底部破片は、この土器群の南東方向約1mの位置から出土しました。地面を浅く掘りくほめ、そこに丸底の甕を据えたまま底を割ったため、くほみの中に底部の破片が残った状態で確認されました。甕の口縁部と胴部の破片は土器

向かって投げて割ったようにも考えられます。

## まとめ

これまで、甲塚古墳は外見から損壊がひどく残りが悪い古墳というイメージが先行していました。しかし、今回の調査によって墳丘の規模や形態、古墳の築造方法や後世の改変の状況が明らかになり、栃木県内でも数少ない埴輪配置のわかる古墳であること、埴輪列とともに大量の土器の発見から葬送などについても多くの問題を考えることのできる古墳であることがわかりました。埴輪については復元・公開までもう少しの時間が必要となります。

今回の調査成果は、今後下野国南部の首長墓を検討する上で重要な基礎資料となります。

参考文献／秋元陽光・大橋泰夫・水沼良浩  
「国分寺町甲塚古墳調査報告」  
「栃木県考古学会誌」第11集

所在地／栃木県下野市国分寺  
調査主体／国分寺町教育委員会  
調査期間／平成16年5～7月・12月  
調査面積／約250m<sup>2</sup>  
編集／下野市教育委員会 文化課  
発行／2008年3月(一部改訂)



参考ホームページ

<http://sgkohun.world.coocan.jp/totigi/kokubun/kabuto.html>

<http://obito1.web.fc2.com/simotukeoyama.html>

<http://www.ipn-hayashi.com/cgi-bin/pidetail.cgi?mode=&title0=%89%BA%96%EC%8Db%92%CB%8C%3%95%AD&choice0=k1201090&printer=&photoview=11&index=662&browser=99&colom=24&font=20&screen=240&life=>

